



測候時報第72巻第2号及び気象庁研究時報第57巻第2号の内容案内

測候時報第72巻第2号(平成17年10月7日発行及び気象庁研究時報第57巻第1号(平成17年10月28日発行)が発行されましたので内容(表題:著者:ページ:要旨)についてお知らせいたします。

なお、測候時報・気象庁研究時報は気象業務支援センター(Tel:03-5281-0440, Fax:03-5281-0443, URL: <http://www.jmbc.or.jp>)から購入できます。

<測候時報第72巻第2号>

◇湿潤絶対不安定:静的安定性の6番目の状態

George H. Bryan and J. Michael Fritsch

(翻訳者 北島 尚子・香月 麻由)

湿潤絶対不安定に関するアメリカ気象学会誌掲載の論文を翻訳・紹介する。

本論文では、湿潤絶対不安定層がメソ対流系に伴って生成・維持されうるということを、パーセル理論の応用と数値シミュレーションで論じ、概念モデルを提

案する。条件付不安定な層が浮力以外の原因により持ち上げられて湿潤絶対不安定成層となると、その層は潜熱解放により暖められるため、その中で対流する空気塊の浮力が減少し、不安定が維持されうる。

<気象庁研究時報第57巻第2号>

◇前線の考え方の過去と現在

北島 尚子 P27-57

総観規模の前線について、レビューを行った。初期の前線モデルが密度不連続(零次不連続)の考え方に基づいていたのに対して、1930年代以降現代まで、密度傾度不連続(一次不連続)の考え方により説明されている。そこでは前線は有限の幅の遷移帯(前線帯)を持ち、前線の傾斜などの点で多様な構造をとりうる。

また鉛直運動の励起や、下層と上層の前線の相互作用も、天気現象を考える上で重要である。

(気象庁総務部企画課)